

## パレスチナにおける市場志向型農業 <その3>

### 接木苗の生産と利用

ヨルダン渓谷においては高品質且つ安定的な野菜生産を目指して、また土壌病害への対策の一環として、ASAP 及び EVAP の両プロジェクトを通して接木技術の導入に力を注いできた。現場での活動としては、接木苗生産拠点の整備、接木苗の品質改善、圃場での接木実証試験に分けて実施した。

インキュベーターの導入により大量且つ安定的な接木苗の供給体制を整え、接木苗の生産拠点化と技術普及を図ることを目的として、生産拠点の整備を実施した。対象組織としては、既に野菜苗を生産している育苗会社ならびに農民グループとした。育苗会社の場合には大量生産が可能な反面、一部の接木苗に不良品質、異品種、バクテリア汚染、出荷遅れ等の問題が生じた。この結果、一部の農家からは信頼を失うことになった場合もあり、接木苗品質の改善に加えて管理システムの改善が課題となっている。一方、農民グループによって育苗会社よりも安価に生産されている接木苗は生産者にとって極めて魅力的であり、農民グループ間での接木苗の取引も促進されている。



インキュベーターの導入



接木実習の様子

生産される接木苗の品質向上を目的として、特に農民グループにおいては接木技術ワークショップを実施した。これらのワークショップにおいては、接木苗の有利性、各種接木法やインキュベーターを用いた接木苗の育苗管理、圃場における接木栽培方法を詳細に説明した。また、実際に台木と穂木を使った接木作業の実習も実施した。こうした講義及び実習を繰り返し実施することによって、各生産拠点における苗木生産技術の質的向上を図り、結果的に接木苗の品質改善を果

たすことが出来た。

選定した農民グループにおいては接木実証試験を実施すると同時に、優良事例においてはフィールドデイや研修を実施し、周辺農家への普及を図った。実証試験の結果、以下のことが明らかになった。

- 太陽熱利用の土壌消毒を実施したトマト圃場では、接木株と普通株の明確な収量差は確認されなかったが、土壌病害汚染土壌では接木効果が実証された。
- 夏作キュウリにおける接木株の普通株に対する優位性は確認できなかったが、冬作のキュウリ栽培では接木株の土壌病害抵抗性に加えて低温耐性、収穫期間の延長が確認された。
- スイカ栽培では、土壌病害抵抗性、草勢、収量において、接木株の効果が明瞭に実証され、良好な結果が得られた。この成果は、20 数年前土壌病害で壊滅状態となったスイカ産地における栽培の復活劇として現地メディアを通して広く報道された。



トマト接木株



キュウリ接木株



スイカ接木株



フィールドデイ

さらに、接木苗を利用した栽培により得られる効果と収益性についてもクroppバジェットに取りまとめた。しかしながら、データ数の不足やばらつきにより結果を一般化するには至っていない。今後、普及員や農家が接木苗の利点を正確に理解し、接木苗の利用が収益性の増大につながるよう、有効に導入されていくことを期待したい。